

● 経済用語・データのいみ ●

「平均貯蓄額」

過日、総務省は2016年の「家計調査報告（貯蓄・負債編）」を発表しました。それによると、2人以上の世帯における貯蓄残高の平均値は1,820万円で、4年連続の増加となりました。「そんなにあるの?!」と思った方もおられるかも知れませんね。今回は「平均貯蓄額」を取り上げます。

1. 「平均貯蓄額」の算定について

(1) 調査対象者

全国の市町村から168市町村を選定し、2人以上の8,076世帯を無作為に抽出しています。一人暮らし世帯は含みません。

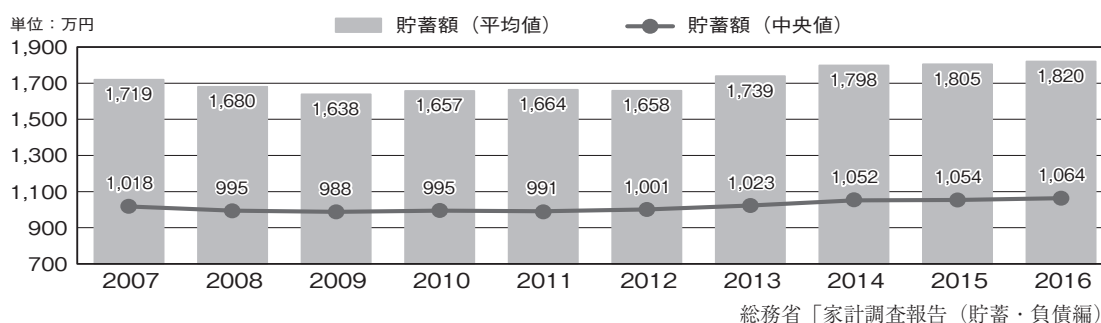
(2) 「貯蓄」の定義

本調査における「貯蓄」とは、預貯金（普通預金、定期預金など）の他、有価証券（株式、債券、投資信託など）や積立型の生命保険、個人年金などを含みます。さらに社内預金など、金融機関以外への預貯金も含みますが、公的年金・企業年金やいわゆる「タンス預金」は含みません。

(3) 貯蓄の「平均値」と「中央値」について

平均貯蓄額は、調査対象世帯すべての貯蓄総額を単純に1世帯当たりで算出したものですが、これにはちょっとした「からくり」があります。極端な例ですが、ある10世帯のうち、1世帯のみが貯蓄額2億円で、他の9世帯が0円である場合、平均値は2,000万円となりますが、2億円を保有する世帯以外の9世帯は「そんなにあるの?!」と感じると思います。調査では2,000万円以上の世帯が全体の29.8%、4,000万円以上でも12.6%を占めており、この層が平均値を引き上げています。ちなみに、貯蓄額によって世帯を横1列に並べた時の中央値は1,064万円と、平均値とかなりの乖離があります。

図表：貯蓄額（平均値・中央値）の推移



2. 平均貯蓄額は何故こんなに高額なのか？

対象を2人以上の「勤労者世帯」に限定すると、平均貯蓄額は1,299万円、中央値が734万円と、全体の数値よりも大幅に低くなります。また、平均貯蓄額算出には資産形成途上期の若年独身者など一人暮らし世帯を含んでいません。すなわち、非勤労者世帯で退職後のセカンドライフを楽しむ「富裕層」が、平均貯蓄額を引き上げているものと思われます。

閑話ひとつ

- ▶ 夏の夜、床に就いてふとこんなことを考えました。「100年さかのぼると私の先祖は何人いるのだろう。さらにずっとさかのぼって行けば人類共通の祖先、ひいては生命の起源にたどり着くはず。一体それはどれくらい前か？」
- ▶ 私には2人の親がいて、その親たちにも2人ずつ親がいて祖父母は4人、曾祖父母は8人、高祖父母（約100年前）は16人（ここで合計30人）…。こうして計算し、20代ほどさかのぼる（1代25年とすると500年）と約100万人の先祖がいる計算となります。
- ▶ 500万年前まで行くとチンパンジーとヒトの共通の祖先に行き当たるそうです。さらに生命の起源までさかのぼって行くと、46億年前に地球が誕生したあと、20億年前に地球上のすべての生物のもとになった微生物が登場したと考えられています。全生物の共通祖先は細菌などの微生物なのです。気が遠くなるような話ですが、地球に生命が誕生したことは奇跡！ 生物の進化は不思議だらけです。（HS）